

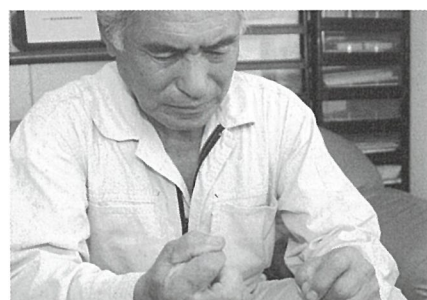
釣りの匠人、全国の川で真剣勝負 鮎は釣ってよし、食べて美味し、 しかし一番は孫の笑顔！

豊田の自然に恵まれた閑静な住宅街近くにある、大心リサイクルセンター 有限会社 大心実業（代表取締役 池田大和氏／豊田市泉町神高406-5 電話 0565-80-1860）を訪問し、会長 池田 仁さんにお話を伺いました。



■趣味の釣りについてお聞かせください。

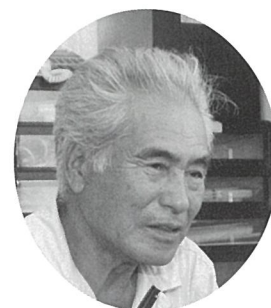
池田 釣りといっても範囲が広いのですが、私は鮎釣り一本です。鮎釣りは大会があり、釣具メーカーや、地域の鮎釣り団体等が主催し、規模はローカルなものから全国大会まであります。少しでも時間があれば、全国の川に行って大会に



親鮎の鼻環など、ほとんどの釣り具を手作りする池田会長

有限会社 大心実業
代表取締役会長（西三河支部）

池田 仁さん



参加しています。そのおかげで全国に釣りの友人ができました。鮎釣りは私が小学生の頃、近所のおじさんと一緒に釣りに行ったのがきっかけですが、熱中し始めたのは社会人になってからです。

■鮎釣りは、何匹くらい釣れるのですか。

池田 多い時は1回で60～70匹ほど釣りますが、孫達が競ってたくさん食べてくれるので、釣った甲斐があります（笑）。塩焼きが一番おいしいですよ！ しかし鮎は貴重な魚なので、地域ごとに釣れる時期が決まっています。

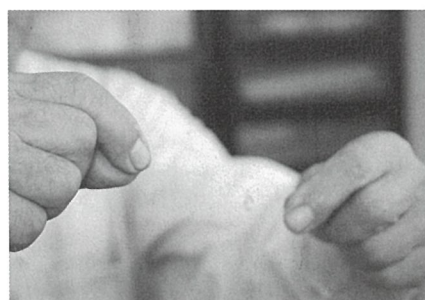
■たくさん釣れるコツがあるのですか。

池田 コツかどうかわかりません

が、私の釣り具はほとんどが手作りです。釣る方法は親鮎（友鮎）の鼻に鼻環を付けて川に放し、縄張り争いをする鮎を釣る、という手法ですが、この鼻環から自分で作ります。釣具屋でも鼻環は売っていますが、少しでも親鮎に負担がかからないように工夫しながら作業している時は、現地で釣りをしている時と同じくらい楽しいです。他にはヘラブナ釣りの浮きを孔雀の羽の軸で製作していると、次々にアイデアが浮かび、あっという間に時間が過ぎてしまいます。

■釣り道具が決めてですか。

池田 そうですね、釣り具の手作りにもこだわりがありますが、竿の選択も重要です。竿の品質が良



いとやはり高額になりますので、良い竿を買うためにも、一生懸命仕事をします（笑）。

■なぜ鮎釣りなのですか。

池田 鮎は縄張り意識が強い魚で、鮎釣りはその性質を利用して釣るのですが、自然相手なので思った通りの結果にならず、一筋縄でいかないところが魅力ではないでしょうか。溪流の中に入り、鮎がいそうなところに、竿が9m、釣り糸が9m前後、他の釣り人に当たらないようヒットポイントを狙い、竿を振ります。鮎が釣れた時のうれしさは、何にも代えがたい達成感があります！

■鮎釣りで気を付けることはありますか。

池田 雨には気を付けています。釣り場の川が浅くても、上流で大雨が降ると下流に流れて、急に水位が上昇し、流される危険があるので。川によっては雨の情報を、携帯電話から知ることのできるの



数々の鮎釣り大会で活躍

で、自然の中で遊びながらも周りの状況に絶えず注意を払っています。

あえて困難な道を進むところが魅力なのでしょう。他にもスポーツをされましたが、コツが見えると楽しみが失せてしまうようです。“天才とは1%のひらめきと、99%の努力である” 発明家トーマスエジソンの名言が似合う、池田会長さんです。

■釣りは奥が深いですね。

池田 そこが鮎釣りの醍醐味ですね。道具作り、値の張る釣り具、鮎との駆け引き、自然の驚異、知恵を駆使した競技のような、鮎との鏝迫り合いがなんとも興味深く、ここまで私を引っ張ってきました。



■他には何かされていますか。

池田 無農薬の野菜作りです。これがなかなか大変で、ひたすら雑草抜きと害虫駆除の毎日で、これが収穫までの90%の作業です。やっと収穫できる作業が10%です（笑）。手間暇かけた、うちの野菜は、格別の味がしますよ！

お忙しいところお時間をいただきありがとうございました。道具作りのお話をされる池田さんの表情は真剣で、丁寧に優しく説明をしてくださいました。産業廃棄物処理業務に携わり資源循環に貢献され、実生活でも自然との共生を実践し、自らを律したライフスタイルに感銘しました。

